



花き生産情報第1号

平成30年4月19日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

今年は例年になく施設内の温度変化が激しくなっています。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めましょう。

夏秋ギク

1 生育状況

8月上旬出荷の作型で使用する苗の生育は順調であり、病虫害の発生はほぼ見られていない。

2 今後の作業

(1) 育苗

- ア 苗の親株の管理では、最高温度25℃を目安にハウスの換気に努める。また、苗の幼若性を維持するため、電照またはエテホン剤の散布を行う。
- イ 白さび病、灰色かび病の発生防止のため、定植前に薬剤の予防散布を行う。
- ウ 移植栽培の挿し芽は定植2週間前に行い、定植1週間前から徐々に温度を下げ、順化させる。

(2) 定植

- ア 病虫害の発生を防止するため、ほ場や施設周辺の古株や雑草などの残さは、速やかに片づける。
- イ 定植前にはほ場に十分かん水する。また、定植後の活着を促すため地温の確保に努める。
- ウ 8月上旬出荷の作型では、定植を4月下旬～5月上旬の間に行う。

(3) 定植後の管理

4月から5月は、天候が不安定でハウス内の温度変化が激しい時期なので、ハウスの開閉をこまめに行い、適正な温度管理に努める。また、低温や降霜が予想されるときは、加温の実施や被覆資材で保温する。

トルコギキョウ

1 生育状況

春定植における苗の生育は概ね順調であり、病虫害の発生は見られない。定植作業は例年並からやや遅い4月上旬から始まっている。

2 今後の作業

(1) 育苗

- ア は種直後は発芽適温である20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- イ 育苗中は、用土が乾燥しないように適宜かん水する。

(2) ほ場の準備

- ア 事前にはほ場へ十分かん水しておき、土壤水分を見ながら定植2週間前までに施肥・耕起する。
- イ 施肥量は、土壤診断に基づき施用する。なお、土壤消毒を行ったほ場では、生育が過剰になる恐れがあるので、施肥量を減らす。
- ウ 活着促進のため、早めにマルチを張り、定植までに地温を確保する。

(3) 定植

- ア 8月上旬出荷の作型では、4月下旬を定植の目安とする。
- イ 老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。
- ウ 定植は深植えとせず、また、株元を強く押さえないようにする。定植後は、土と苗をなじませる程度に軽くかん水する。

(4) 定植後の管理

- ア 発らいまでは乾燥させないように適宜かん水する。
- イ 低温時には、トンネル、カーテン等により保温に努める。
- ウ 追肥は、生育の状況を見ながら、発らい期頃までに液肥を中心に行う。

花き生産情報第2号は平成30年5月18日発行の予定です。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

ほ場の準備に当たっては、土壤診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって、

農薬は適正に使用しましょう。

農薬の飛散を防止しましょう。

農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。

クロルピクリン剤など土壤くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等(厚さ0.03mm以上または難透過性の資材)で被覆してください。

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です(4月1日～5月31日)

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。

2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。

3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。

4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。

5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線 5080
直通 017-734-9485
